

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1 (1)	法人理念の共有・施設理念の共有が出来ていない 家族への周知とともに実践に繋げる事が課題	1. 法人・施設理念を職員に周知 2. ご家族へ周知	1. 事務所に理念を掲げ、常に見えるところで意識をする。GHスタッフの会議で必ず確認を行う 2. 運営推進会議や毎月の手紙の中で記載や報告を行う	10ヶ月
2	6 (5)	【次のステップに向けて期待したい内容】 事業所独自の「身体拘束等の適正化のための指針」を作成し、研修などで職員に周知する事を望む	1. 事業所独自の「身体拘束等の適正化のための指針」を作成 2. 研修などで職員に周知する	1. 身体拘束防止委員会構成委員・職員会議等で検討を行い、マニュアルを作成 2. 施設内勉強会にて職員に周知する	6カ月
3	20 (8)	個々により、心身機能の状態は違うが、馴染みの人や場所との関係の継続の支援が困難になっている。 認知症の進行により、人や場所を忘れていて混乱を招く事がある。	1.施設外、地域の店や場所に行く事であらたな馴染みの場所を作る事が出来る。 2.地域の人と協力出来ているか。 3.家族の意向を聞いて支援できているか。	1. 散歩、公園、スーパーに定期的に行き馴染みの場所を作る。(可能な方は、自分で財布を持ち、その財布から自分で支払いが出来る様に援助する) 2. 地域の店、喫茶店(ふれあい喫茶等)、理容店(訪問理容も含む)に行き地域との関わりを持つ。 3. 回想法(昔の風景、写真を見る)を用いて、思い出話しをする。	10ヶ月

4	35 (13)	避難訓練等は出来ているが、備蓄品の保管場所の確保や量・種類が充分でないことが課題	ご利用者の人数分×1日分の備蓄を確保  居室におひとりずつ確保する	ご利用者様家族に了承を得て各居室に備蓄食を置く。賞味期限の前に保存されている食事を利用しまた購入し直しを行う(避難訓練と連携出来れば良い)		10ヶ月
				費用	1日分3食として、1,000円以内	
				保管場所	各居室内でご利用者に応じて危険でない場所を検討	
				入れ物	色・柄を全ご利用者統一すること(職員が把握しやすいようにしておく)	
				主食	粥などレトルトでそのまま食べられるようなもの	
				水	2リットル1本	
				ビスケット	非常食用ビスコ保存缶	
その他	アレルギーや食事形態に注意し、各個人に必要なものを検討					
4	19	本人と家族のきずなを大切にしているが、新型コロナウイルス感染症の流行で家族との関係が継続しにくい	ご本人とご家族の関係を良好に、お互いに思いやれる関係を築く	2ヶ月に1回の手紙や往復はがき、家族に月に1～3回は電話をして、ご本人と話をして頂く機会をもつ		10ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。